

令和元年度 旭川市農業センター運営懇話会 会議録（要旨）

日 時 令和元年6月14日（金） 午後3時から3時40分まで

場 所 旭川市農業センター ホール

出席者 （参加者）

池田 修氏，因幡 淳一郎氏，内村 めぐみ氏，小藪 亮平氏，地子 立氏，  
谷本 守氏，塚田 則和氏，土井 邦由氏，松本 英和氏，室崎 敏夫氏，  
山崎 賢治氏，和田 澄江氏（五十音順）

（市 側）

安藤農業センター所長ほか農業センター職員12人

会議の公開・非公開の別 公開

傍聴者 なし

会議資料 資料1 令和元年度（2019年度）花菜里ランドのあらまし

資料2 平成30年度旭川市農業センター試験成績書（概要版）

資料3 令和元年度 旭川市農業センター試験課題等一覧

資料4 使用料・手数料の見直し案に対するご意見を募集しています

資料5 使用料一覧<抜粋版：農業センター>

資料6 手数料一覧<抜粋版：農業センター>

議 事

【進行役】

それでは、次第に基づいて進めさせていただきます。

まずは、令和元年度旭川市農業センターの事業概要について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

（資料1から3までに基づき、農業センター所長から概要説明を実施）

【進行役】

ただいま、事務局から昨年度及び本年度の事業概要説明がありましたが、御意見や御質問、また、センターに対する要望等がありましたら、お願いいたします。

何かございませんか。

**【参加者】**

施設の利用の促進ということが課題として挙がっているということだったのですが、農産加工について、特に利用頻度の高い加工品は何でしょうか。

**【事務局】**

主に夏場ですとトマトジュースの利用頻度が高い状況で、冬に入ると味噌加工の利用頻度が上がるといった傾向となっております。

**【進行役】**

他にございませんか。

**【参加者】**

土壌分析依頼の直近の5年間の数値なのですが、格安で土壌診断できるにもかかわらず、かなり変動しているように見えます。5年前の平成26年度は3,000点近くありますが、2年後の平成28年は半分になり、また、直近は2,000点まで盛り返しています。

これは、毎年土壌診断される方と、随時土壌診断される方と分かれるということなのでしょうか。

**【事務局】**

基本は、平成28年度や平成29年度の年間1,500点から1,600点ぐらいがベースの数値だと思われていますが、平成27年度までは国からの補助金支給要件の一つに土壌分析があり、多かったという事情はあります。

毎年、土壌診断をされる方もおられますが、多少年によって変動はあると思います。

ただ、すべての農家の方が土を出されているわけではないと考えておりますので、多くの方から土を出していただけるよう、普及・啓発を行っていく必要があると考えております。

**【参加者】**

年間としては、1,500点程度を目標としていると考えていいのでしょうか。

**【事務局】**

1,500点程度をベースに考え、そこからどれだけ上乘せしていけるかということです。

**【進行役】**

ほかに、御意見・御質問はございませんか。

ないようですので、次の議題へ移りたいと思います。

使用料及び手数料の見直しについて、事務局から説明をお願いします。

## 【事務局】

(資料4から6までにに基づき、農業センター所長から概要説明を実施)

## 【進行役】

ただいま、事務局から使用料及び手数料の見直しについて説明がありましたが、皆さんから御質問や御意見がありましたら、お願いいたします。

特に手数料は、営農に関わる代金の値上げであり、家庭菜園・家庭園芸に関しても若干値上げになっていますので、それぞれ忌憚なく御意見をお願いいたします。

## 【参加者】

手数料について、事前に目を通させていただきまして、当然、旭川市の一部ということで、「受益と負担の適正化」という部分については、十分に私自身としても理解を示したいと思っていますし、受益者の方々に説明をしていかなければならないと考えているところではあります。土壌診断代金に対しては、生産者の1サンプル当たりの負担が高額ということもあり、たぶん市内のどこの農協も、金額に差はありながらも助成をしている現状にあると思います。

そのような中で、当農協においては、単価の2分の1助成をしている状況にあります。

先ほど、実績の中で質問にあったとおり、土壌診断については、農業を行う上で最も重要なことであり、また、市そして農業センターが旭川産農産物の品質向上や収量性向上を図っていくと実施していく中で、残念ながら生産者の負担としては高い利用料金であると言わざるを得ません。

例えば、当農協の昨年の実績で言いますと、水稻の一般分析で約190点、野菜の総合分析で約180点、合計370点あまり出しております。昨年は、災害の多い年だったということで、市からの緊急対策で料金を無償化していただき、結果利用が増えたという状況でしたが、通常の件数としては、250点から300点の間のサンプル数となります。

現在の農業の課題にも絡むと思うのですが、農業の後継者や生産者が減っている中で、1農家当たりの作付面積が非常に大きくなってきており、土壌診断するサンプル数も、1農家当たりで増えているという現状にあらうかと思えます。

370件のサンプル、利用農家数で言うと60戸ですが、そのうち約82%が1農家で5サンプル以上の土壌診断をしているという現状にあります。土壌診断1サンプル行うだけであれば数百円で済むかもしれませんが、中には最大10サンプル以上出す方もいらっしゃいますので、そういう方にとっては、3,000円、4,000円の負担拡大ということになります。

厳しい農業情勢の中で、農地の流動化を図り、その中で今年初めて賃貸契約を結んで作付け

するというほ場も毎年あります。そういうほ場は積極的に土壌診断をしていくことが当然であろうとは思いますが、正直厳しいなというのが、農協でとりまとめをさせていただいている担当としての率直な感想です。

当農協は、行政地区は鷹栖町と旭川市の2地区にまたいで営農活動をしております。鷹栖町に確認しましたら、鷹栖町も同金額で土壌診断を行っておりますが、今のところ値上げをする、値段を見直す予定はないとの話を昨日確認させていただいております。農協としては、助成をしていく上で公平性を保つことが厳しくなるかなという懸念もあります。

先ほど、今年は2,200サンプルぐらいの分析計画があるとの説明があったと思います。

今年はこの金額ですので、そのくらいはあるのかなとは思いますが、改定が実施された翌年度以降はたぶん、当農協からのサンプル数は、半分以下になるのではないかと推測しております。農協の助成なり手法について検討が必要と、直近の課題として捉えさせていただいております。

話が長くなりましたが、あくまでも要望ということで、答えを求めるものではありませんが、寛大な市の対応をお願いしたいと考えております。

#### 【進行役】

他に御質問等、ございませんか。

#### 【参加者】

先ほどの御意見とまったく同じで、土壌診断については、農業の基本であります。

農業センターの関係についても、手数料の値上げというのは免れ得ないものとは十分理解しています。

値上げ幅をできるだけ少なくしてほしいということもありますが、農政部とも連携して対策も講じてほしいということを要望したいと思います。

#### 【進行役】

他に質問等はありませんか。

それでは、この件につきましては、また7月中下旬に懇話会を開催し、御意見を伺いたいということですので、皆さん意見等があれば、そのときをお願いいたします。

最後に、その他ということですが、事務局から何かございますか。

#### 【事務局】

次回の懇話会日程につきましては、後日日程調整をさせていただき、改めて文書により開催案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

先ほど、使用料及び手数料見直しの中でお二方から御意見がございましたが、大変厳しい状況だということは我々も理解しているところでございます。

ただ、この部分だけ値上げ率を下げた他のところはそのままということは、正直厳しい状況です。

特に、営農の基本となる土壌診断の部分ですので、お話の状況は十分理解しておりますし、我々もそのような気持ちではありますが、先ほど説明させていただいた「受益と負担の適正化」という全市的な考え方に基づきまして今回提案させていただいたということを御理解いただきたいと思っております。

**【進行役】**

それでは、全体を通じまして、何か御意見、質問、要望等がありましたらお願いいたします。ないようですので、以上をもちまして議事を終了させていただきます。